

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271402192		
法人名	社会福祉法人杏寿会		
事業所名	グループホームあけぼの A棟		
所在地	長崎県南島原市布津町乙674-3		
自己評価作成日	平成22年10月20日	評価結果市町村受理日	平成22年12月13日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所1階
訪問調査日	平成22年11月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者がグループホームでより良い生活ができる為に、男性方の意向を取り入れ、本年度はウッドデッキに網を張り朝顔を満開に咲かせる事が出来ました。又、外部からの協力にて菊の「懸崖」の育成に取り組み手入れをしながら職員との会話も弾み、笑顔が見られ、楽しみが増え意欲を示されています。入居者、職員と一緒に楽しみ、明るく、笑顔のあるグループホームを目指しています。日々の生活に生き甲斐を持てるよう、簡易なことは努めてお手伝いしていただく事にしています。又、月に一度は外出の機会を設けている。特に春秋のハイキングには、多くの入居者が参加できるように布団等も準備し、入居者、職員と一緒に楽しめるように工夫している。レクリエーションも毎年新しい趣向を取り入れ、入居者と家族と一緒に楽しめるよう、明るく、楽しく、笑顔のあるグループホームを目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

設立から30年に及ぶ歴史ある母体法人は、福祉の拠点として地域から寄せられる信頼が厚い。現場の情報把握を怠らない理事長をはじめ、母体法人のバックアップのもとに、所長、職員が一丸となって支援の充実と地域連携に意欲をもって取り組みを続ける事業所である。支援の充実という点においては、「生き甲斐探し」として利用者の生活歴や会話の内容からキャッチ出来たことに着目し、迅速に活動支援に繋げている。今年の3月から始めた「菊の懸崖作り」はその一例で、利用者と共に職員も栽培を学び協力して、文字通り利用者の笑顔と共に、花開かせることが出来た。地域との連携については、今回から「講」という地域レクリエーションの形を借りて、事業所主催で「中通自治会交流会」を開催し、今後も交流に加えて啓蒙活動や地域還元の目的へと幅を広げていきたいとしている。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護に携わる方針や入居者と一緒に過ごしていく上での目標を明らかにしている。毎日朝礼で確認し、日々の介護に職員と一丸となり、日常的に生かした介護が出来ている。	利用者が常に明るく元気であることを願い、理念の「生き甲斐を持った生活」をピックアップして、利用者の『生き甲斐探し』に取り組んでいる。職員がアンテナを広げ、『その人らしさ』が発見できるように、気づきを集約し提案を行っている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事、催し、町内掃除等、積極的に参加し、地域の一員になれるように努力している。	「お笑い講」という昔からの地域レクリエーションをなぞらえて、部落交流会を開催した。食事を交え地域と事業所との距離を縮める試みとして行なったが、参加者からの相談もあり、認知症介護と支援の実態に関する啓蒙活動の機会ともなった。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	7月に自治会の方や、老人会の方を招いて、食事会やレクリエーション等と一緒に行動し、楽しんで頂きました。一緒に過ごして頂くことで認知症の事を少しでも理解してもらえたようです。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回、運営推進会議を行い、最近の活動状況及び今後の行事予定の報告をし、意見交換を行い、よい意見は取り入れ、サービス向上に取り組んでいる。今年は3回、行っている。	町内民生委員の委員長を務める参加メンバーもいることから、消防団との連携など地域からの情報収集や意見をいただけることも多く、今後も会議を活用して運営に反映していきたいとしている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	警察、消防、地域の消防団等の協力を得て、行方不明者の人命を早期発見できるように連携を取っている。支所の担当者とは、会議等への参加で馴染みの関係である。	行方不明者捜索に関しては、地域の他事業所との連携も不可欠と感じており、行政の協力も得て取り組んでいきたい意向を持っている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいるが、やむをえない場合は検討し、家族の同意を頂くことになっている。	言葉の拘束については、全体会議において理事長からも話があるほかに、日々の申し送りの中で所長からもあらためて注意喚起の通達がなされており、職員の認識を深めるよう努めている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が起きないように徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について研修等で勉強している職員はいるが、対象者はこれまでにいなかった。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用料、入院時の対応、又、その期間、入退所の条件等、十分に説明し、理解して頂いている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの意見、要望は面会時や家族会等にて説明を行なっている。	年2回の家族会開催時には、所長自ら自宅へ訪問し案内状をお渡しすることで誠意を持って参加をお願いし、また個別に意見聴取が出来る機会ともしている。家族面会時には、様子を探ることで要望がないか先回りして伺えるよう心がけている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送りや全体会議等で職員の意見を聞く場を設けている。	毎日の申し送り時に、業務に関する意見を聴取する時間を十分にとるようにしている。業務中でも、改善が必要な案件については集合をかけて話し合い、即決即断の為に意見を出し合うようにしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員が向上心を持って、積極的に働けるように条件の整備に努めています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社協を利用した研修や研修会、又施設内での勉強会や介護教室等を行なっている		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	島原半島認知症対応型共同生活介護事業所連絡協議会に入会しており、定期的に参加し、サービスの質を向上させる為に勉強会等を通じて取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	普段から本人の表情・状態を観察して本人の不安な事や要望等、常に傾聴し、安心してもらえるように努力している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	常に連絡をすることにより、家族の不安、要望等を傾聴し、安心してもらえるように連絡を取っている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	生活歴の中から、本人の状態、好み等により、家族と相談してより早くなじんで頂く様に努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	寝食を共に一緒に過ごす家族として喜怒哀楽を共にし、何か役割を持って頂くことで生活意欲を持って頂いている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	一人ひとりに合ったものを模索し、家族と良好な連携をとり、共に支えていく関係を作っている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	機会があれば、本人の友人等も面会をお願いしている。理容美容院や歯科等、支援している。	問題発生の折に、家族との話し合いが必要だったことを契機に、家族関係の修復に繋がる支援が出来た。生活状況を考慮して家族へ実費で食事を提供する支援もなされており、本人、事業所との繋がりを大切にしている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に目配り、気配り等で孤立(孤独)する人がいないように支えあっていけるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係が続く家族もいるが、そうでない家族の方もおられる。関係が続く家族に関しては必要に応じて相談や支援が出来るように努力している。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活歴を大切に、出来るだけ本人の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は本人、家族と話す機会を設け、検討している。	入居時にアセスメントを行ない、本人、家族の意向を伺って職員間で話し合いを行なっている。日々のケアの中で「こうしてほしい」という本人の思いを汲み取ること、観察から気づきを得る為に、コミュニケーションをとることを多く心がけている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や暮らし方等、家族や本人に聞く事で情報等の把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	健康体操、歩行訓練、レクリエーション等、一日の過ごし方の記録やバイタルチェック等を行い、現状の把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の思いを基に職員間でケア会議を実施し、意見やアイデアを出し合い、介護計画を作成している。	チームで作成するケアプランを目標に、職員への意識改革として、観察力をつけて気づきを増やしプランへ反映することに取り組んでいる。高齢化、重度化が進む中で、身体介護を主としたケアプランの在り方も検討している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子や気づいた事を個別記録に記入している。日々、新たな対応に心がけ、家族、職員と検討し、介護計画の見直しを行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人で行われる盆踊りや運動会又、様々な行事、慰問等へ参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の意向や必要性に応じて、ボランティア・消防・教育機関等に協力をお願いしながら、支援している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医による受療継続を基本としている。通院支援はホームで対応している。協力医療機関とは24時間連携体制をとっている。	家族の意向をあくまで尊重し、主治医との引き続きの関係を大切にしている。協力医の意向で、他科受診など情報共有をおこない、医療連携に努めている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制をとり、日常の健康管理、状態の変化に対する処遇のやり方等、相談しながら支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が安心して治療が出来るように情報交換や相談を行っている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族と話し合い、かかりつけ医と相談しながら、方針を定めており、共有していきたいとしているが、職員全員が共有しているとはまだいえない。	医療機関との連携を大切に強化に努めながら、今後終末期に向けた支援に取り組むこととしている。取り組むにあたって、家族へのメンタルケアをも求められることも含めての、職員の心の準備の必要性を感じている。	職員と事業所の方針を再度確認し、終末期の支援における職員へのメンタルケアをも考慮して、意識付けに努めていかれることに期待したい。また、家族会においても支援についてニーズの聴取等、話し合う機会も期待する。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の職員による応急手当や救命処置の訓練を職員全員が受けているが実践力はまだ不十分である。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地元消防団や警察、行政等、訓練に参加していただき、災害時等に協力できるようお願いしている。スプリンクラー設置。	目標達成計画に基づき、非常災害時における食料、飲料水、燃料の備蓄と確保に取り組んだ。災害復興後の対策としての、緊急持ち出しファイルの整備も同様に行なった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の取り扱い等、十分に気をつけて、言葉を選びながら支援を行っている。	利用者の個性や生活歴を把握し、自尊心を損ねることがないように距離感を図りながら、会話や言葉かけに注意をしている。接遇に関して申し送り時に所長からの確認、指導もあり日常的に配慮している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分で決めたり、納得しながら過ごせるよう、本人が自己決定したことに支援できるよう努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを大切に、出来るだけ希望にそえるように支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪の出張サービスや、希望する理容、美容院へ家族、職員等が行っている。又、希望があれば、洋服の買い物等の付き添いも送迎も行う。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しくなるよう食べやすい大きさ等にしている。介助の必要な入所者も多い為、一緒に食事は出来ないが、一部の入所者に準備、片づけを手伝ってもらっている。	全介助が必要な利用者もいる為に、職員も共に食事することが困難な状況もあるが、朝食時には共に食事をしている。夏季には流しそうめんが好評で、新鮮な食材を使った美味しい食事の提供に心がけている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が献立を作成しており、栄養バランスに配慮された食事を提供している。食事摂取量のみ記録に取り、栄養の確保に努めている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食に歯磨き、口腔ケアに取り組んでいる。又、口腔の状態の観察も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間おきの排泄誘導介助や、排泄チェックにより、排泄の失敗がなくなるよう、支援している。	自立されている方や車椅子で介助が必要な方も含め、声かけ誘導で日中はトイレを利用し、現状維持の為に支援を行なっている。夜間は安眠と安全に考慮し、身体状況によりおむつやポータブルトイレを使用している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	健康体操、歩行訓練等を通じて、運動不足の解消に取り組んでいる。又、水分補給、服薬にてコントロールを行っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現在の人員状況では、希望どおりには行えない。出来るだけ、週2～3回の入浴を行えるよう努めている。	利用者の希望、意向に沿った入浴時間や回数で対応に努めている。体調により入浴が出来ない場合も、清拭や足浴で清潔保持がなされている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間は、入所者の状態に応じて、和室や居室に休んで頂いている。夜間は、冷暖房を使用し安眠できるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	副作用や用法については一部の職員は理解している。服薬介助は二人の職員で名前を確認し、誤薬のないように努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションやドライブへの参加、又、洗濯物をたたんだり、食事の後片付け、花栽培等、嗜好品等で気分転換出来るよう支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に応じて、ドライブ、花見、墓参り等、本人の希望も聞きながら、支援している。	買い物などの外出の要望には随時個別対応出来るように努めている。歯科診療など通院支援時の帰りなど、自宅へ立ち寄りしたいなどの意向を示された場合も対応するようにしている。季節の風物を楽しむドライブも利用者に好評である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の出来る方には所持して頂いている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話等、希望があれば、支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	衛生面を第一として、季節感を出すよう生け花を飾ったり、行事ごとの飾り付けをして、居心地よく過ごせるよう工夫している。	多目的に使えるウッドデッキのパティオを中心に、2ユニットの居室と共用空間が取り巻く構造で、陽光が注ぐ明るい室内である。キッチン、リビング、事務室からも洗面所や居室の見守りがしやすく、広々として快適なリビングで日中を過ごす利用者が多い。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビのあるフロアにて、ソファーに座り、入所者同士、会話をされ、思い思いに過ごされている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ホームで用意してあるタンス、ベット、布団、床頭台等があるが、希望に応じ、馴染みの物を持ち込まれている入所者も居られる。	使い慣れた筆筒や鏡台など持ち込みの家具があるが、備え付けの家具のみの居室が殺風景にならないように、利用者が丹精した、美しい朝顔の写真や、ホームでの年間行事の写真パネルを飾る配慮がなされている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	脱衣所や廊下の手すりの設置、浴槽の滑り止め等、安全に自立できるように工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271402192		
法人名	社会福祉法人杏寿会		
事業所名	グループホームあけぼの B棟		
所在地	長崎県南島原市布津町乙674-3		
自己評価作成日	平成22年10月20日	評価結果市町村受理日	平成22年12月13日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所1階
訪問調査日	平成22年11月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+Enter)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(基本的人権の保護、安心した家庭生活、生き甲斐を持った生活、明るく、楽しく、笑顔のあるホーム)の四つを柱に、ホーム独自の理念を掲げ、朝のミーティングで職員全員が理念を再確認し、日々実践している		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の清掃作業やその他の行事には積極的に参加している。秋の祭りでは、お神輿に立ち寄ってもらい入居者共々お賽銭を上げ参詣している。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	本年度より自治会の方を当ホームへ招き、入居者、職員と一緒に昼食を摂った後、レクリエーション等を楽しみ、当ホームの取り組みや認知症に関する理解を深めてもらっている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族会代表、支所職員、民生委員、ホーム職員を構成メンバーとし定期的を実施している。ホームの現状報告や行事予定、消防避難訓練や行方不明者捜索訓練についての説明を行い意見を交換し合っている。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議以外でも、介護認定更新等で支所職員と連絡を取り合い、行方不明者捜索の際には、まず支所の担当者に連絡するようになっており、常に良好な協力関係を保てるよう努めている。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が、本件に関わる具体的な行為を正しく理解しているとは言えないが、玄関の施錠はもとより開放し、身体拘束をしないケアに取り組んでいるが、やむを得ない場合は検討し、家族の同意を頂くようにしている。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が起きないように徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については学ぶ機会があったが、対象事例はない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用料、入院時への対応、又その期間、入退所の条件等、十分に説明し、理解して頂いている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの意見、不満は面会時や家族会等にて説明を行なっている。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員による全体会議などで意見を聞く場を設けている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人が向上心を持って働けるように努めています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は、現場で上司の実地指導を受けている。又月に一回はホーム内で勉強会を行ない、介護方法等を研究し、外部での研修会にも参加する機会を設けている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月実施されるケア研究会には、全員参加を基本としている。又、行事等で他のグループホームと合同で交流を行い、職員同士の交流もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴し、本人の安心を確保する為の努力をしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	傾聴し、連絡を密にとり、安心のある関係作りをしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態に合った支援を、家族と相談し、対応に努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のできる事で役割を持ってもらい、お手伝いをお願いしていることで喜びを共有し、一緒に楽しみながら、感情を分かち合っている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	一緒にできる事を共に行い、家族には無理のない程度で、行事等の参加をお願いしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望を尊重し、又は、機会があれば、面会して頂いている。又、馴染みの関係が途切れないように支援している。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の居場所を常に把握し、関係を考慮しながら、孤立する時間、場所がないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も相談しやすい、関係作りに努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の支援の中から、又はテーマ等を決めて、ノートに書き出す作業のくり返し等で職員の観察力を高め、家族や関係者からも話を聞くようにしている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や環境等を関係者から聞き取り、把握できるように努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの一日の記録、朝夕のバイタルチェック等を行い、ミーティング時に異常がある方はどのような処遇を行うか話し合っている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題を明らかにし、必要な介護計画を作成している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の日々の記録を具体的に記入し、情報を共有し、介護計画の見直しを行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	杏寿会にて行なわれる様々な行事や慰問等へ、参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じて協力をお願いしている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診継続を基本としている。通院支援は、ホームで対応しており、かかりつけ医が遠方等で通院に支障をきたす場合や入院加療後の状況によっては、話し合いの上で変更するケースもある。協力医療機関とは24時間連携体制をとっている。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制をとり、利用者の状態の変化などを定期的に見ていただいている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	しっかりした治療を受けて頂く為の相談はしているが、早期退院の為の相談はしていない。又、退院前は本人の現在の状況、ホームの受け入れ状況を相談し、連携している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	過去に看取りの経験はないが、今後終末期に向けた支援を行う予定である。本人、家族と話し合い、かかりつけ医と相談しながら、方針を定めており、職員も一緒に共有して行きたい。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急事態に備えての対応については、日々内部研修等を行ない、職員の質の向上に努めているが、全ての職員が、相応の実践力を備えているとは言い難い、今後も引き続き訓練等を重ね質の向上に努めて行きたい。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災については、初期消火に重点を置き、消火訓練の実施や全居室に水道ホースが届くように設備が整い、入居者参加の元避難訓練を行なっている。又、消防団や警察に協力を要請している。さらに、本年スプリンクラー設備が設置完了し、消火体制は万全である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	損ねるような言葉かけや、対応、又、個人情報の取り扱いについては、ホーム外への持ち出し厳禁など、十分に気をつけて支援を行っている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一部の利用者の方は、自分のペースを作り出して決定されており、それを支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ、希望にそえるように支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪の出張サービスや家族、職員等が行っている。希望のある方は、本人の行きつけの場所へ送迎等行っている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備、片付け等、出来る事はやっけて頂いているが、食事は現在、介助の方が多く、一緒に食事が出来ない状態である。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の栄養摂取量を記録している。又、午前、午後とも、お茶の時間を設け水分補給に努めている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの徹底や、介助を行い、異常がみられる場合は報告し、治療を行うよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間おきの排泄誘導介助、排泄チェックにより、リズムをつかみ支援している。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表に記入することによって、排便の有無の確認を行い、運動不足にならないよう定期的な運動の支援を行っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日、時間帯は決まっているが、本人の希望、タイミングに合わせ、なるべく多く入浴して頂く様支援している。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の過ごし方を工夫(体操、運動等)し、出来るだけ、眠剤等を使用せず、安眠できるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人処遇記録に薬情を明記し、全職員が把握できるように支援している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	健康体操や様々なレクリエーション活動、懐メロのビデオ鑑賞等、楽しみ事を用意し、入所者の方は、好んで参加している。又、出来る方には、家事の手伝い等役割を持ってもらっている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や、ホーム外の散歩、又、お盆や年末に故郷訪問や墓参り、季節に応じてドライブの場所を考え、戸外に出る機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る方は必要分、所持されているが、ほとんどの方が、事務所にて管理している。自分で買い物できる方は自由に使用されている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持しておられる方もいる。希望があれば、電話や手紙が出来るよう支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的雰囲気が出るよう、装飾等を工夫していきたい。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれ、気の合った方同士、好みの場所で過ごされている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ホームにて用意してある布団やタンスがあるが、希望、要望に応じ持込み品を置いている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	脱衣所や廊下の手すりの設置、浴槽の滑り止め等、安全に自立できるよう工夫し、支援している。		